

シジュウカラ (学名: *Parus minor*)

[スズメ目 シジュウカラ科]



▲腹部の黒いたて線が目印のシジュウカラ



▲建物わきに置かれた木製の覆いの隙間からカメムシを引っ張り出したところ

冬季には野鳥が極めて少なくなる只見町で、雪の時期でもよく見ることができる鳥がシジュウカラです。シジュウカラは、日本全国で普通に見られるスズメほどの大きさの小鳥です。大都会の緑地から山地の森林地帯まで幅広い環境に生息しています。白黒の地味な色合いですが、よく見ると背中美しいウグイス色をしています。

只見町では、雪の季節によく家屋や建物の近くでシジュウカラを見かけます。ただみ・ブナと川のミュージアムにも12月から1月にかけて出現します。その様子をじっくりと観察してみると、屋根と壁の隙間やエアコンの室外機などに飛びついて、陰になった部分を覗き込んでいます。そして、隙間に嘴を入れると虫を引っ張り出して食べるのです。多雪環境にある只見町では、冬になるとシジュウカラの食べ物となる昆虫類やクモ類、果実などが見つけにくくなります。そのため、家屋や建物の壁面などに隠れている昆虫を積極的に食べにくるのです。マイマイガが大量発生した年の冬には、建物に産み付けられた卵をむしりとり食べている様子もみられました。シジュウカラは、私たちの知らないところで、家屋に巣くう虫を取ってくれています。

企画展

「只見の外来生物 — その生態と影響」

と き:2019年3月18日(月)まで開催中

と ころ:ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています